

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

404号

2024年11月号

자주

発行：韓統連大阪本部 自主編集委員会

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1回発行 購読料年間4000円

郵便振替 00940-7-314392

自主編集委員会

第29回統一マダン生野、尽きぬ統一への想いを高らかに！

第29回統一マダン生野実行委員長 金昌範(キム・チャンボム)

10月6日(日)、いくのパークにて開催した第29回統一マダン生野の成功を報告します。

昨今、祖国統一の実現に向けた途上には大きな試練が横たわっています。比類なく頻回な韓米合同軍事演習に日本の自衛隊も随時参加するようになりました。最近では韓国軍による北側へのドローン飛行という、きわめて危険な行為まで行われ、南北が相互に敵視し、朝鮮半島での戦争勃発の可能性は日々高まっています。

そうしたことから今年の統一マダン生野は、例年にも増してその成否が問われることになりました。

一方で祖国の状況に在日同胞社会が受ける影響から、準備、運営などの面での困難も予想されました。しかし準備を進めて行けば行くほど、支援者、地域の方々、そして出演者の方々の積極的な気持ちに接することができました。

いざ開催当日、いくのパークには昨年にも増してたくさんの方が来場され、韓青の若い二人の司会で進められる演目を楽しまれました。実際に演目の内容についても入念に準備され、水準が高いという印象を持たれた方も多かったと推察します。

今年の統一マダン生野には、大きく二つの特徴がありました。

一つは、舞台上に立った方々の多くが積極的なメッセージを携えていたという点です。

アピールに立った大椿ゆうこ参議院議員やTRY(外国人労働者・難民とともに歩む会)の山口

さんはもちろん、出演者の方からも戦争や差別のない平和な社会への意志と願いが多く語られました。姜錫子(カン・ソクチャ)氏やヘグム演奏主宰者の李美香(イ・ミヤン)氏は、その印象深い演技のみならず、自己紹介の中で祖国の平和と統一への想いを語られました。そして今回きむきがん氏は、この統一マダン生野のために、統一をテーマにしたマダン劇「ホルロアリラン」を創作、準備されました。民族史の中で多くの同胞たちが抱いてきた祖国統一への想いを見事に表現し、来場されたほとんどの方が感動されたことと思います。

もう一つは、韓国民衆と祖国統一への意志をつなぐ貴重な媒介となった点です。

アピールされた民主労総全北本部の皆さん、共に場を作

ってくれたモンダンヨンピルの仲間たち、そして抜群のパフォーマンスで、会場全体を情熱と一体感あふれる場にしてくれた歌手のペク・チャ氏などの皆さんと、統一というテーマの場を共有できたことは今後、祖国の平和と統一のための交流と連帯をより活発に行う契機になったと考えます。

この日本社会で祖国統一への意志と情熱が健在であることを示せた第29回統一マダン生野。この結果は実行委員及びスタッフ各自の努力と、例年以上に熱い想いで支援して下さった方々の存在なしに引き出せませんでした。皆さんに心からお礼申し上げます。



▲主催者挨拶を行う金昌範実行委員長



統一マダン生野、多彩な舞台演目で 子どもも大人も楽しむ

第29回統一マダン生野は、多彩な舞台演目で盛り上がりました。

最初の演目は、MNDコリアンダンスグループによる朝鮮舞踊が披露され、華麗な舞に参加者から温かい拍手が送られました。



▲MNDによる朝鮮舞踊

次に火曜バンドによる歌と演奏が発表された後、金昌範実行委員長が主催者挨拶を行い、金実行委員長は「今年に入り朝鮮半島周辺では頻繁に韓米、韓米日合同軍事演習が実施され、軍事緊張を煽っています。平和な世界を作ろうと努力しているすべての人々が、より強く連帯していくことが今、問われています。統一マダン生野の場が、そうした皆さんとのつながりを作っていくためのきっかけのひとつになればと願っています」と訴えました。

主催者挨拶後は、今回初出演となるコリア国際学園中等部・高等部の皆さんによるK-ポップダンスと交遊亭楽笑さんの手話漫談、KING中村さんの弾き語りが披露されました。

また今年の統一マダン生野では、大椿ゆうこ社民党参議院議員、筋原章博生野区長、大阪TRY(外国人労働者・難民と共に歩む会)、韓国民主労総全北本部などから来賓挨拶とアピールが行われました。

その後、キックアーツテコンドーによるテコンドーの演武と、こちらも今回初出演になる李美香へぐま教室Hyangの皆さんによるへぐま演奏が披露され、へぐまの柔らかい音色が会場に響きわたりました。

続いて、姜錫子さんの独唱、南北分断の悲しみ、祖国統一への想いを表現した、きむきがんさんによる劇「ホルロアリラン」が披露された後、韓国ゲストとして招請したペク・チャ氏によるミニライブが行われました。



▲ペク・チャ氏のミニライブでは
舞台と会場が一体となりました

ペク・チャさんのミニライブでは、在日同胞もよく知っている「イムジン江」をはじめ祖国統一をアピールする「行こう、統一へ」などが披露され、会場の雰囲気は最高潮に。そしてフィナーレでは多くの参加者が手をつなぎ、大きな輪となって「ウリエソウォン(私たちの願い)」を合唱しました。

ビールにフランクフルトなど出店多数

第29回統一マダン生野では多くの団体・個人の協力を得て出店が並びました。



▲毎年好評の各種の出店が並びました

ビールにフランクフルト、たません、キムパッなどの飲食店はとても盛況でした。毎年子どもたちに人気のスーパーボールすくいなどの出店もあり、大人も子どももとても楽しんでいました。

【統一マダン生野感想文】

統一、今も変わらぬ夢

姜錫子(カン・ソクチャ)

統一マダン。私はこの響きがとても気に入っています。

それは私が通ったウリハッキョで、わが民族の最大の念願である祖国の統一を成し遂げようというスローガンを何十年も胸に刻んできたゆえです。

私が統一マダンを公園で最初に見かけたのは、もう何十年も前のことで、主催者が総連でも民団でもない団体というのにも驚きましたし、興味を持ちました。

時は巡って2年前に「ソロで歌ってほしい」と依頼が主催者側からありました。私は長く「コーラス ムグンファ」で歌っていること、ソロでも歌っているということを知ったのか、正直嬉しかったです。

そして今年の統一マダンにも声がかかり「分界線コスモス」「아이들아, 이것이 우리학교다(子どもたちよ、これがウリハッキョだ)」「ハナ(一つ)」の3曲を歌わせて頂きました。

現在、日本で在住している元中国朝鮮族の同胞が「歌を聴いて涙した」と話されました。「分断

による民族の悲しみや苦しみ、ひとつになれたらどんなに素晴らしいことだろうという思いに駆られた」と言っていました。統一を願う人はたくさんいるということを再確認しました。

今回、私たちのグループでも「財政の足しになれば」という話がまとまり、初めて出店をすることになり「マンドゥ(蒸し餃子)」を売ることになりました。ウリハッキョのバザーとは違うので、日が近づくごとに「売れるのか」という不安を感じながら当日を迎えましたが、メンバーたちの頑張りで利益を出すことができました。

今年は仲間と一緒に統一マダンを盛りあげられたことに、と

ても満足しています。

日本で生まれ育った私たちが、北も南もない平和な祖国に自由に往来できる日を夢見て、これからも頑張っていこうと思います。

감사합니다(感謝します)。



▲独唱を披露する姜錫子氏

写真で見る第29回統一マダン生野



▲会場のいくのパーク



▲火曜バンドの皆さんによる歌と演奏



▲交遊亭楽笑さんの手話漫談



▲子どもたちによるテコンドーの演武



▲会場には多くの同胞・日本人などが参加



▲ヘグム教室Hyangのヘグム演奏



▲大椿ゆうこ参議院議員のアピール



▲きむきがんさんによる「ホルロアリラン」



▲ペク・チャさんによるミニライブ



▲最後は手をつないで「ウリエソウォン」を合

唱



【投稿】

私たちの願いは統一

金 恨(キム・ハン)

●暴走が止まらない尹大統領

尹錫悦政権が発足して2年半、南北関係は完全に冷戦時代に逆戻りしてしまった。就任以来、北を「主敵」と規定し「強力な韓米同盟でいつでも北を倒せる」と豪語し、朝鮮半島の緊張を煽ってきた。北も対抗して昨年末には対南政策を大きく変更させ、南北は同族ではなく「二つの交戦国関係」と定義した。北も南を敵とし、南北関係は戦争状態であると宣言したのだ。南北がお互いに銃を向ける危険な状況である。それにもかかわらず4月から風船による北へのビラ撒布を繰り返し、6月からは軍事境界線の拡声器放送を6年ぶりに再開した。いずれも休戦協定で禁止されている軍事行為であり、拡声器放送は軍の心理戦部隊が担当している。



▲統一を願い、統一旗を持ちながら写真を撮る青年たち

8月には「自由・平和・繁栄の統一大韓民国」という「統一ドクトリン」を発表した。尹大統領の言う自由とは反共であり「自由の北進統一」とは、北を吸収して統一することを意味する。非常に挑発的なスローガンだ。10月1日の国軍の日には2年続けてソウルの真ん中で大規模な軍事パレードを実施した。2年連続の実施は全斗煥政権以来、実に40年ぶりだ。「金正恩打倒」を主張する極右の人物を外交安保の要職につけ、その暴走は留まる所を知らない。

●文前大統領の側近が「統一はやめましょう」

9月に光州で「9・19平壤共同宣言6周年記念式」が開かれた。この記念式での文在寅前大統領の秘書室長だった任鍾哲(イム・ジョンソク)氏の基調演説が波紋を呼んだ。任氏は「いっそ統一をやめましょう。別々に暮らしながら互いを尊重し、互いに助け合って一緒に暮らせばよいのではないのでしょうか。しっかり平和を築き、その後の朝鮮半島の未来は後の世代に託しましょう。客観的現

実を受け入れ、二つの国を受け入れましょう。憲法3条の領土条項(大韓民国の領土は朝鮮半島全域)を削除するか改正しましょう」と語った。

北の政策変更を受けての「新しい提案」だが、これに保守が噛みついた。ソウル市長は「金正恩の『敵対的二国論』を復命復唱している」とし「従北(北朝鮮追従)を通り越して、忠北(北朝鮮に忠誠)」だと批判。脱北者の国会議員は「敵対的二つの国家論の号砲に名目をたてる」密偵とまで非難した。北の主張に同意しているから大問題

だという右翼の常套的発想だ。民主党からも「いきすぎた発言で、統一を放棄した反憲法的発言」という批判が出た。

任氏の報告には米国への問題指摘が一切なかった。

4・27板門店宣言と9・19平壤宣言は南北最高指導者間の合意だ。米国の圧

力により、これをあっさりと反故にしてしまったことの総括をしていないのだろうか。文前大統領は朝鮮半島の平和の調停者になろうとしたがなれなかった。そもそも調停者という発想そのものが間違いであった。調停者ではなく、当事者であり主役なのだ。米国に付度(そんたく)している限り、統一も平和も永遠に実現できないというのが歴史の教訓だ。

●分断のままでは生きられない

祖国を分断し、維持してきた最大の外勢は米国だ。統一はやめて、このまま生きようという話は、米国の国益のために分断のままに生きようということだ。米国の圧力に屈しない政府の樹立が急がれる。尹錫悦弾劾の声が日々高まり、支持率も20%まで下がってきた。韓国の小学校で「私たちの願いは統一」という歌を教えることは義務ではなくなっただけだが、復活する日はそう遠くないだろう。

【翻訳資料】

梨泰院惨事から2年、真実はいまだに

「2周忌は違うはずだと思っていました。亡くなった方たちを真っ当に追悼し、この場に集まった遺族たちを慰労するものと思っていました」。

2年前の惨事の真相はいまだに謎に包まれている。なぜ最初の通報時に十分な安全措置を採らなかったのか、なぜ惨事発生前に要請した機動隊人員が拒否されたのか、なぜ遺族が遺体を探すために直接病院を転々としなければならなかったのか、惨事の真実はいまだに「なぜ」という疑問に満ちている。

犠牲者159人の遺族たちは、まだ明らかにされていない真実と責任者を見つけるための闘いを続けている。惨事2周忌を3日後に控えた10月26日、彼らは梨泰院からソウル市庁まで行進して連帯を訴えた。

行進の途中も極右団体のヘイトスピーチは相変わらずだった。大統領府前で待機していた彼らは、行進していた遺族たちに向かって怒号を浴びせたり、指を立てたりして、行進が終わるまで野次を止めなかった。

梨泰院特別法は5月、国会本会議の門を通過した。国民の力の反対に、遺族が譲歩に譲歩を重ねた結果だった。特別調査委員会の職権調査と押収捜査令状請求権限が削除され、特別検事任命のための国会議決を要請できるようにした条項も消えた。

苦勞して成立した法案だったが、その後も順調ではなかった。政府・与党が特別調査委員の組織構成を遅らせたのだ。結局、法案が公布されてから4ヶ月以上経った9月23日に、ようやく特調委が出帆することになった。

特調委の出発が遅れたためか、責任者たちも処罰を免れている。惨事現場到着時刻を偽り、写真記者の撮影を妨害した朴熙英(パク・ヒョン)龍山区長は1審で無罪判決を受けた。機動隊支援要請を拒否した金グァンホ元ソウル警察庁長官も1審で無罪を言い渡された。

特調委の活動が重要になってくる理由だ。特調

委が新たな証拠を発見し、重要な事実を明らかにすれば、2審で違う結果をもたらすことができる。

行進後に行われた追悼式には、与野党を含む多くの政界・市民社会人士が追悼するための思いで集まった。しかし、秋慶鎬(チュ・ギョンホ)国民の力代表委員が発言台に上がると、参加者の間では「何の資格で来たのか」と抗議が殺到する場面もあった。

事故生存者のイ・ジュヒョンさんは政府の消極的な被害者把握を指摘した。イさんは2年経ったにもかかわらず、震える声で当時を振り返り、「生存者の範囲はどこまでなのか」と問いかけた。

「消極的な被害者把握で生存者と負傷者はいない者となった」と説明、「このような状況で160人目の犠牲者がいないと断定できるのか」と一喝した。

イさんは「病院から『あなたの負傷と苦痛が梨泰院惨事によるものであることを、医師の診断書を添付して支援延長を申請せよ』という案内書

を受け取った」と述べた。しかし「短い期間内に病院を渡り歩き、医師の診断書を求めたが、今の痛みと因果関係を説明できない」と拒否され、今は延長申請書をあきらめたと明らかにした。

その上で、特調委と政府に「これが果たして私一人の話なのでしょうか」と問いかけ、「放置され、権利を奪われたまま、一人で耐え忍んでいる数多くの人がいる」と話した。続けて「受動的に被害救済申請者だけを調査する態度ではなく、隠れた被害者を見つけ出す姿勢を持たなければならない」と強調した。

(韓国インターネット新聞“民プラス”10月26日付より)。

編集後記

第29回統一マダン生野は成功裏に終わりました。いろいろ準備で大変でしたが、今は達成感があります。朝鮮半島情勢は緊張が継続しています。戦争反対、平和実現の声を力強くあげましょう！
(ソン)



▲10・29梨泰院惨事を最後まで記憶します